

第1回 幕別町総合計画策定審議会 第2部会 会議要旨

1 開会

- ・山岸部長挨拶

2 部会長の決定について

(事務局)

- 推薦という方法でお諮りしたい。(異議なし)

- どなたか発言は。

(國安委員)

- 帰山委員を推薦する。

(事務局)

- 帰山委員を部会長とすることでよろしいか。(異議なし)

以降については、部会長にお願いしたい。

3 第6期幕別町総合計画基本計画(案)について

- ・事務局から、総合計画基本計画(案)第3章について一括説明後、節に区切って質疑応答。

【第3章第1節 安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進】(P16~P17)

(國安委員)

- 学童保育は、何年生から何年生まで受け入れているか。

(事務局)

- 1年生から6年生まで受け入れている。

(杉山委員)

- 休日保育や病児保育とあるが、現在はどのようなになっているのか。

(事務局)

- 現状では、実施していない。病後児保育を青葉保育所、延長保育を札内南保育園・青葉保育所で実施しており、これからの課題と考えている。

(杉山委員)

- ファミリー・サポート・センター事業について、昨年も講習会を実施していたと思うが、サポート体制はどのような状況か。

(事務局)

- 28年度実績で、お願い会員31名、任せて会員25名、どちらも会員14名。利用実績は、送迎61回、預かり3回の計64回となっている。

(杉山委員)

- 預かりとかで万が一のことがあった場合には保険はあるのか。

(事務局)

- 女性労働協会の保険に加入している。

(前野委員)

- 0~12歳で、子どもの数は何人か。また、減っているのか。

(事務局)

- 0~14歳の数値であるが、H29年3月末で3,481人。H28年3月末で3,531人であるので、50人の減となっている。

(前野委員)

- 幕別町としては、出生率の低下に対して何か対策をしているのか。

(事務局)

- 保育の充実など子育て支援、不妊治療助成、妊婦健診助成、不育症助成事業など実施しており、0～14歳人口簡単には増えてはいないが取組をしている。

(前野委員)

- 幕別町独自の事業はあるか。

(事務局)

- 今申し上げた不妊治療助成、妊婦健診助成、不育症助成事業など幕別町独自あるいは町で上乗せしている。また、中学生医療費無料は1市3町では唯一幕別町が実施している。

(前野委員)

- では、出生率の増加というのは、これから考えるということか。

(事務局)

- 定住対策など施策を総動員して、子どもを産み育てたいという町づくりを進めている。不妊治療、法定検診以外の検診や学校教育の充実や医療費の無料化、修学旅行費の支援など実施している。時代時代に合わせた支援を現在も行っており、これからも実施していく。

(杉山委員)

- 法定検診以外は、どのようなものがあるか。

(事務局)

- 母子保健法では、1歳、1歳6か月、3歳であるが、幕別町では、6～7か月訪問、2歳児相談など実施している。

(杉山委員)

- 1歳6か月から3歳までの間が重要で、2歳児相談があることに非常に安心する。

(三田委員)

- 以前、音更に住んでいたが、越してきた際に小学生医療費無料で、途中から中学生まで無料となり、修学旅行費も助成がなされ、すごいと感じている。以前PTA研修でひとり親の修学旅行費用の助成があるが、親が使ってしまい結局子どもは修学旅行に行けなかったという事例を聞いた。ほかにも給食費なども幕別の未納の状況はわからないが明確にこれに使うということがいいと思う。給食費だと収納率はどうか。またそれはいい方なのか。

(事務局)

- 給食1日2,750食調理している。3億～4億費用がかかっている。これを単費でとなると財政負担が厳しいのが実情。ほかの施策で支援していきたい。収納率は93%くらいと記憶している。幕別町の規模ではいい方だと認識している。

(前野委員)

- 3児童養護の充実(1)に地域住民によるパトロール活動とあるが、地域住民が行っているのを見たことがない。地域という書き方だと公区単位で推進するかと思うがやっていないのにこのような表現を盛り込むのか疑問を感じる。

(事務局)

- 幕別町生活安全推進協議会で、行事の際にパトロールやスクールガードによる見回りなど実施している。公区で生活安全推進員を選任し、幕別町生活安全推進協議会に入ってもらおうという仕組みをしている。

(高道委員)

- 夜8時くらいにスポセンから帰る際、暁町の方だと思うが4～5人の方が腕章を付けて見回りしているのを見かける。自分は新北町公区の役員をしていたが公区でパトロールも実施していた。

(事務局)

- 公区での差はあると思うが、実施している公区もあり、また、実施にあたり例えば腕章などの支援をこれから検討したいということも含めこのように記載しているということでご理解願いたい。

【第3章第2節 明るい長寿社会の実現】(P18)

(高道委員)

- スポセンのトレーニング室を利用するが、トレーニング指導員から、年齢に合わせたあるいは認知症予防のためにこういった運動がいいなどのアドバイスをいただける。スポーツについては、介護予防に効果があると思うが、そのことをこの節に盛り込めないか。

(事務局)

- 運動機能の低下を遅らせることで、介護状態とならないようにすることは、これまでも実施してきており、高齢者が増える中で今後も重要な事項である。本計画においては、介護事業について基本方針にあるように「介護保険事業計画」に基づき進められ、この中で詳細な事業が記載されること、施策の方向においては「2 介護予防の充実」において、介護予防事業を実施していく中に運動での介護予防として包含されているということでご理解いただきたい。

(高道委員)

- トレーニング指導員は教育委員会の所管であると思うが、福祉・介護の課ともっと連携して、歩み寄ることによっていいものが生まれるのではないか。

(事務局)

- 介護の部分で認知予防の体操など連携はしているが、おっしゃるように教育委員会と町長部局との組織の壁はある。もっと連携を深めることは必要であると感じている。
スポーツの部分を取り入れるということは、担当の説明はあったが、読み取れない部分もあるので、持ち帰り検討させていただきたい。

【第3章第3節 障がい者（児）福祉の充実と共生社会の実現】(P19)

(杉山委員)

- 高次脳機能障がいは、ここ10年くらいで出てきた言葉であるが、高次脳機能障がいと判定された方は多くいるのか。

(事務局)

- 判定が難しい障がい人数は把握していないが、自分が関わった例でも疑いのある方はいた。脳の損傷を受けた部位で異なるが認知症状などが現れ、障がいサービスや介護保険サービスでの対応となっているのが現状である。

(清弘委員)

- 施策の方向性2 (2)、(3) は幕別町特徴的で幕別分校としても非常にありがたいこと。本校には、知的障がいを持つ生徒がいるが、保護者が養育できていない例もある。十分な食事ができていない、入浴ができていないなど。札幌市などでは福祉課が音頭を取り学校と連携してケース会議を実施している、保護者の生活支援等についてどう町と連携していけばいいか、わからない。

(事務局)

- いわゆるネグレクトなどはある。学校の先生や民生委員、生活保護の方ならケースワーカーなどに参加してもらいケース会議を開催している。町のみでは難しいところであり、今言ったような関係機関と連携していくことが必要であるとは認識している。窓口としては子ども課に

なる。

(大谷委員)

- 現状と課題に障がいが列挙されているが、身体障がいについては親子がずっと一緒にいる現状で、親に何かあった時に預かってもらうことが少ないため、身体障がいという言葉も含めここに盛り込んでほしい。また、災害時の避難所で障がい者がいると白い目で見られるのが現状なので、障がい者も安心して使える部分を確保して欲しい。

(事務局)

- 一時預かりについては、少ないながらも町内や帯広にあり、そういったところと連携していくこととしている。避難所については、短期で収束するか長期かによって開設するか否か判断ではあるが、福祉避難所も13避難所指定しており、備品も用意しているところ。ただ一番大切なことは、障がい者理解が進んでいないということだと思ふことから町としても理解を推進していかななくてはならないと認識している。

身体障がい者という言葉については、現在いわゆる3障がい法律上一つとして扱われている。また、非常に制度改正の多い分野であり、施策の方向の中では「各種福祉サービスの充実を図ります」として、広く読み込める表現としていることで理解いただきたい。

(高道委員)

- 長くなったとしても、わかりやすい端的な言葉で、具体的に表現していった方がいいのではないか。もっとやってみようという計画でもいいのではないか。計画であるので記載してできなかったとしても課題として次に繰り越せばいいのではないかと思う。

(事務局)

- 今後10年間の大きな指針であるが、細かい事業が出ていると分かりやすいというのはあるが、反面、いろいろな読み方をできるようにしなければ、国の制度が変わった時や他の組織からお金を引っ張って来ようというときに計画のどこに位置付けられているのかということが問われる一面もある。細かい事業は実施計画でなされるが、それがどこにあるのかは基本計画に、さらにそれが大きくはどこにあるのかというのは基本構想にというピラミッドの体系であるということを理解していただければと思う。

(工藤委員)

- 部長のいうとおりの構成でいいと思う。公区でもいろいろな事業をしているが、細かいことを決めるとそこに縛られてそこから出ていけない。方向を決めていくとどんどん膨らんでいく。細かい事業を議論すると別の話になってくる。

(部会長)

- 細かいことも含め、意見を出していただいて、ここに含まれるというような議論を重ねていければいいと思っている。

※ 時間により、本日はここで終了とし、次回は第3章第4節 20ページから開始することとした。

以上